

小学校特別活動における「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第2編より

特別活動における「評価の観点」の設定と「内容のまとめりごとの評価規準」の作成

特別活動においては、改善等通知において示されたように、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、**「各学校で評価の観点を定める」**としている。

STEP1 小学校特別活動の 内容のまとめりを確認

- 学級活動・・・(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

児童会活動
クラブ活動

- 学校行事・・・(1) 儀式的行事
(2) 文化的行事
(3) 健康安全・体育的行事
(4) 遠足・集団宿泊的行事
(5) 勤労生産・奉仕的行事

STEP2 「評価の観点」設定

学習指導要領の特別活動の目標及び各学校の実態を踏まえて、特別活動の「評価の観点」を設定する。そして、「内容のまとめりごとの評価規準」は、学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を踏まえ、特別活動の特質に応じた形で作成する

STEP3 「内容のまとめりごとの 評価規準」作成

小学校特別活動における「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

第2編より

特別活動における「評価の観点」の設定と「内容のまとまりごとの評価規準」の作成

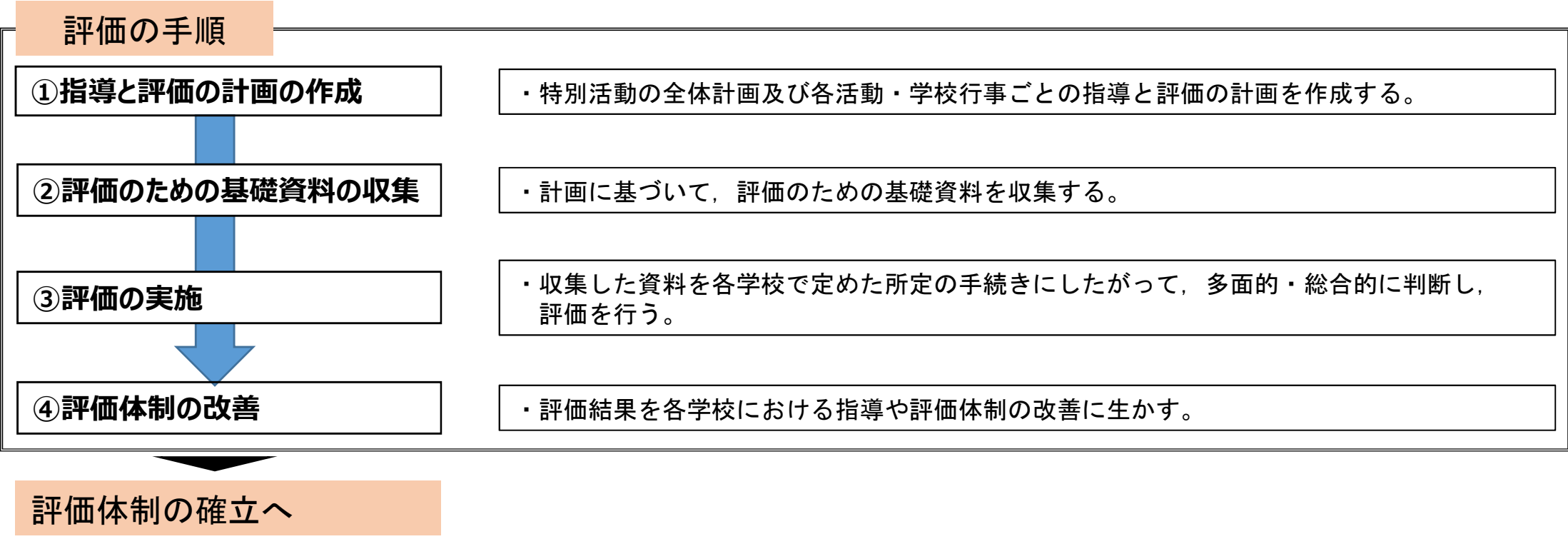
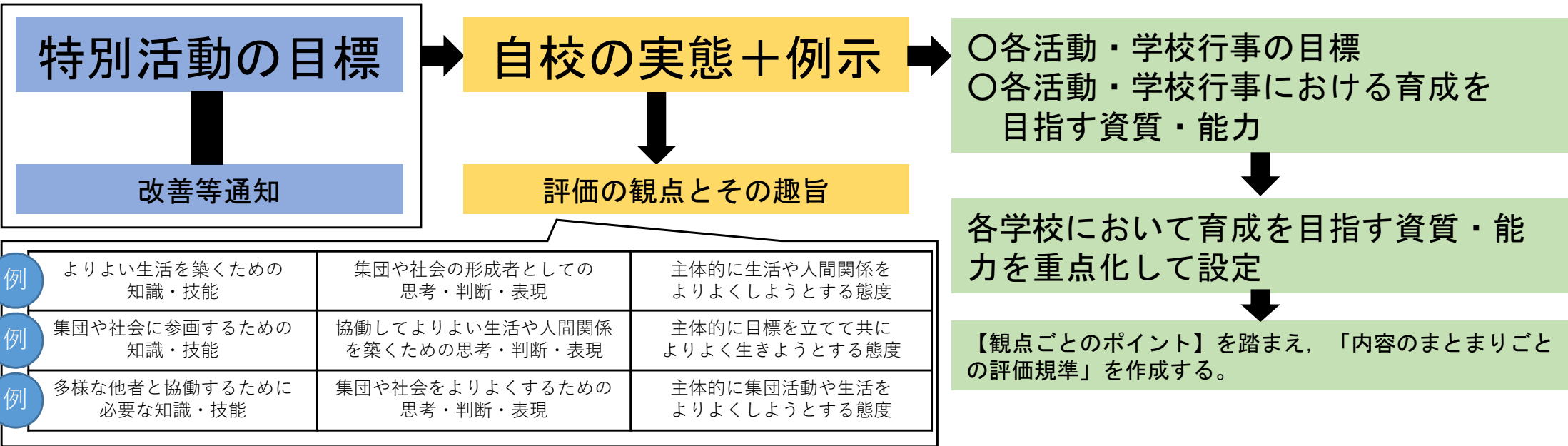
①学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

②学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

③学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

④観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

小学校 特別活動における評価規準を作成する際の手順



特別活動の全体計画及び各活動・学校行事ごとの指導と評価の計画を基に

学級活動において

主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの児童の活動の様子から、積極的によさや可能性を見取るようにする。

児童会活動，クラブ活動，学校行事において

※評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任の手元に届き、活用されるようにする

学級担任

学級担任以外の教師

※個々の児童の活動状況について、学級担任と担当する教師との間で情報交換を密にする。

※必要に応じて評価した結果を全教師で共有し、指導に生かすことができるようにする。

各活動・学校行事ごとの
評価規準の作成



「目指す児童の姿」の
設定

- ・各学校で評価規準を設定する際には、参考資料の第2編を活用し、学級活動（1）（2）（3）の低・中・高学年の発達段階、児童会活動、クラブ活動、各学校行事について、観点ごとに設定することが考えられる。
- ・1単位時間の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を、具体的に設定することが考えられる。その際、評価場面の重点化を図ることも考えられる。

各学校においては、各活動・学校行事ごとに指導と評価を適切に位置付けた計画を作成することが大切である。「学習指導要領第1章総則編第2（2）イ」において、

特別活動の授業のうち、児童会活動、クラブ活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする

と示されたことを受け、それぞれの目標やねらいが十分達成できるように、よく検討して適切に授業時数を充てるようにする。

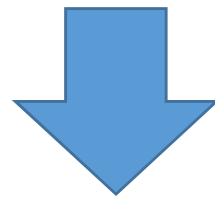
特別活動においては、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるようにする評価を進めるため、**活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりする**ことが大切である。

児童一人一人を評価する方法としては、**教師による観察**が中心となるが、**チェックリストや児童自身の各種記録の活用**など、評価方法の特質を生かして評価するようになる。特に、児童が「活動に見通しをもって取り組み、活動を振り返って次の課題解決につなげたり、改善したりする」等、自主的、実践的に取り組むことができるようになるために、児童の学習活動として、**自己評価や相互評価を行う**ことも多い。したがって、観察による教師の評価と併せて、児童自身による評価を参考にすることも考えられるが、**児童の評価をそのまま教師の評価とすることのないよう配慮する**必要がある。

また、児童一人一人のよさや可能性を生かし伸ばす点から、児童のよりよい姿が見られた際には、随時、当該児童に伝えたり、学級や学年、学校全体に紹介したりすることが考えられる。

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図るものである。すべての評価の観点について、**事前・本時・事後の一連の学習過程の中で評価できる**ようにしたり、各活動・学校行事における顕著な事項は補助簿を活用して記録したりしておき、**一定期間に実施した活動や学校行事を評価規準に基づき、まとめて評価する**など、効果的で効率的な評価となるよう配慮する必要がある。

例えば学校行事において、5年生では自然の教室については**全員が振り返りを書く**とともに活動の状況を評価するというように、1年間の学校行事を見通して重点化を図ることも考えられる。その際、**一人一人の児童が振り返りをカードに記録したり、教師が補助簿に記載したりする**など、記録に残し、評価に生かすようにする。



大分県教育委員会が作成する「大分県版キャリア・パスポート」の活用も大いに考えられる。活用する際には、「キャリア・パスポート」を書くためだけに時間を使うのではなく、学校行事へ向けたためあてと振り返りを表と裏に記述することができる学習カードを用いるなど特別活動の実践の中で使用した学習カードを用いることも考えられる。

「大分県版キャリア・ノート」（大分県教育委員会）

作成中

未来をえがく キャリア・ノート！



(しょうがっこう) 小学校
(ちゅうがっこう) 中学校

なまえ

大分県教育委員会

もくじ

きやりあ・ばすぼーとのしょうかい	1
しょうがくせいみなさんへ	2～9
・1ねんせいのわたし	
・1年生のわたしをふりかえって	
・2年生のわたし	
・2年生のわたしをふりかえって	
・小学校1・2年生をふりかえって	
・わたしのあこがれの人	
3・4年生みなさんへ	10～16
・3年生のわたし	
・3年生のわたしをふりかえって	
・4年生のわたし	
・4年生のわたしをふりかえって	
・中学年から高学年になる今、小学校3・4年生をふり返って	
・私のあこがれの人	
5・6年生みなさんへ	17～24
・5年生の私	
・5年生の私をふり返って	
・6年生の私	
・6年生の私をふり返って	
・自分を知ろう！	
・私のあこがれの人	
中学生みなさんへ	25
中学1年生の私	26～34
・なぜ私たちは学ぶのだろう	
・将来の自分を見つめよう	
・人とのつながりを考えよう	
・中学1年生の私を振り返って	
・私のあこがれの人	
中学2年生の私	35～44
・職場体験学習に向けて	
・働くことについて考えよう	
・ふるさとに生きる人から学ぼう	
・中学2年生の私を振り返って	
・私のあこがれの人	
中学3年生の私	45～56
・希望する進路先を調べよう	
・人とのつながりを考えよう	
・自分の将来を創りだそう	
・卒業していく私	
・18歳の私へ	

令和2年度の6月には、大分県内全ての小・中学生に配付予定

小学校児童指導要録における特別活動の記録

【小学校児童指導要録（参考様式）様式2（第5学年）の記入例】

〇〇〇十分満足できる活動の状況がみられた場合

特別活動の記録								
内容	観点	学年	1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能		○		○	○	○	
		児童会活動						
	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現							
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度							
学校行事								
		余白						

全学年で共通した各学校で定めた評価の観点を記入する。

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室」で、めあてに向かって自分の役割を責任をもって行うとともに、友達と協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、「○」を付けた根拠を示すようにする。

児童会活動は第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢活動であることから、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

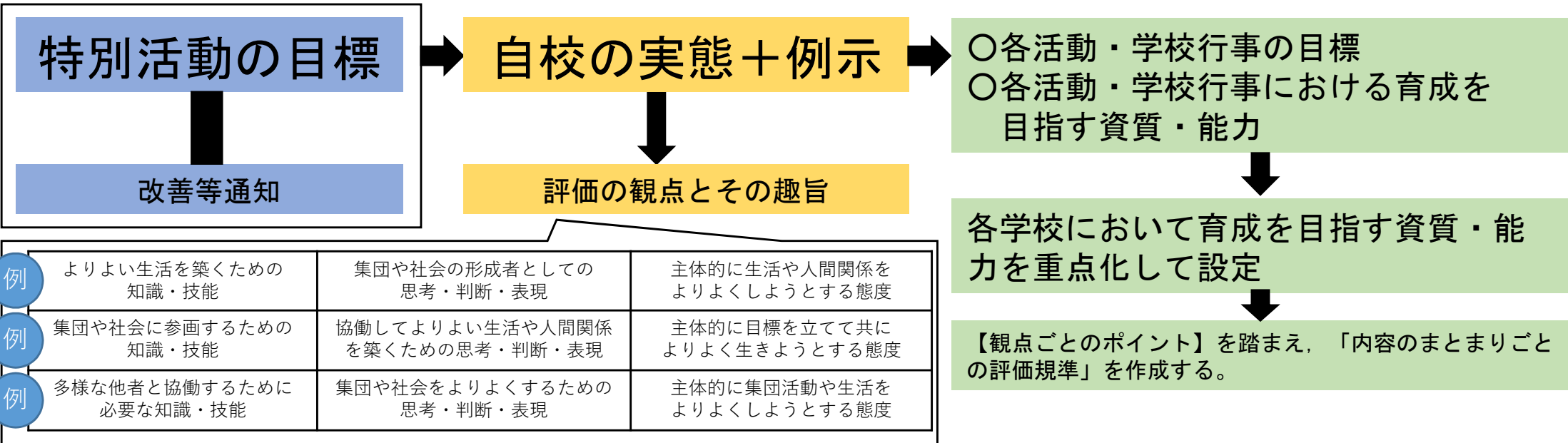
これはクラブ活動を第4学年から実施している学校の例である。学校規模等により、下学年から実施する場合は、実施しない学年について斜線を引く。

【「十分満足できる活動の状況」について】

指導と評価に当たっては、**各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を指すのかを検討し**、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで、「目指す児童の姿」に照らして、**十分満足できる活動の状況が見られた場合に指導要録に○を付ける。**

なお、特別活動における十分満足できる活動の状況の評価に当たっては、特別活動の特質を踏まえ、**児童のよさや可能性を積極的に評価する**ことが大切である。

小学校 特別活動における評価規準を作成する際の手順



学級活動（１）「学級や学校における生活づくりへの参画」を例にした手順

(ア) 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて改善等通知の例示を参考に作成した特別活動の評価の観点を確認する。

(イ) 「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動（１）において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力を設定する。

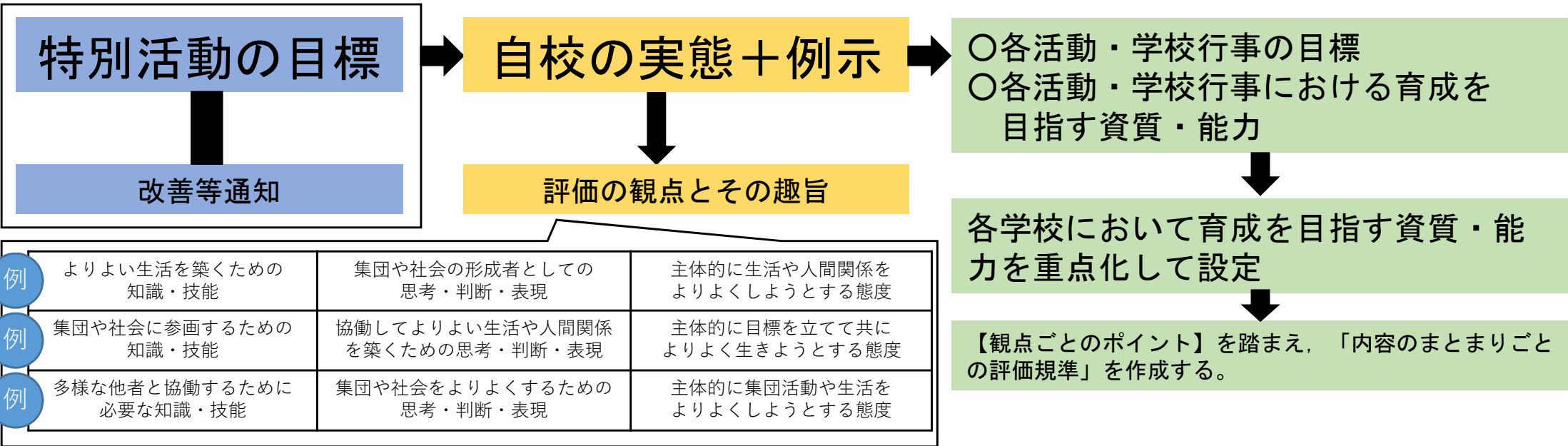
(小学校学習指導要領解説特別活動編P47)

(ウ) 低・中・高学年の発達段階をもとに観点ごとの評価規準を作成する。（第２編の例を参考にする）

例 [第１学年及び第２学年の例]

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

小学校 特別活動における評価規準を作成する際の手順



学級活動（２）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」を例にした手順

（ア）学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて改善等通知の例示を参考に作成した特別活動の評価の観点を確認する。

（イ）「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動（２）において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力を設定する。

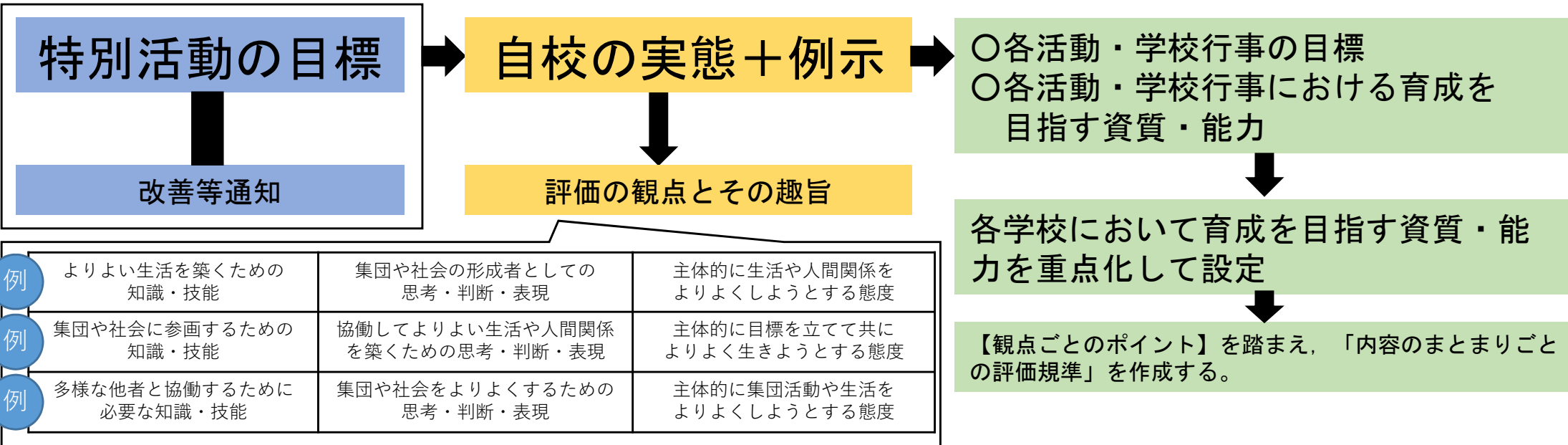
（小学校学習指導要領解説特別活動編P52）

（ウ）低・中・高学年の発達段階をもとに観点ごとの評価規準を作成する。（第２編の例を参考にする）

例 [第１学年及び第２学年の例]

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合って、よりよい人間関係を形成しようとしている。

小学校 特別活動における評価規準を作成する際の手順



学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」を例にした手順

(ア) 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて改善等通知の例示を参考に作成した特別活動の評価の観点を確認する。

(イ) 「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動（3）において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力を設定する。

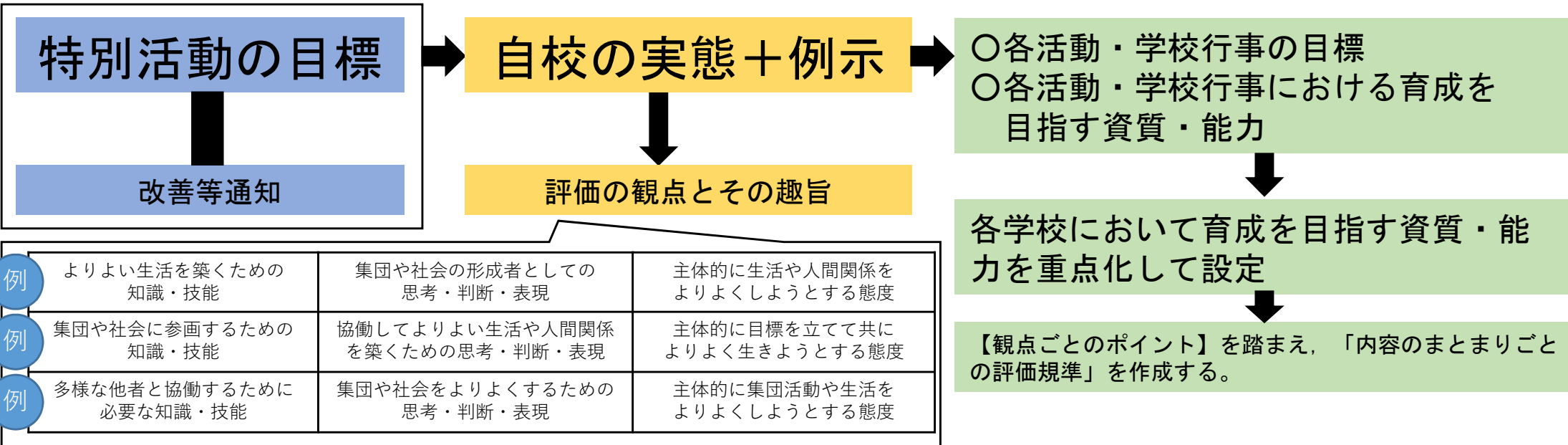
(小学校学習指導要領解説特別活動編P58)

(ウ) 低・中・高学年の発達段階をもとに観点ごとの評価規準を作成する。（第2編の例を参考にする）

例 [第1学年及び第2学年の例]

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

小学校 特別活動における評価規準を作成する際の手順



クラブ活動を例にした手順

(ア) 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえて改善等通知の例示を参考に作成した特別活動の評価の観点を確認する。

(イ) 「クラブ活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「クラブ活動において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力を設定する。

(小学校学習指導要領解説特別活動編P102)

(ウ) 観点ごとの評価規準を作成する。(第2編の例を参考にする)

例	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
	同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動を計画する方法や創意工夫を生かした活動の進め方などを身に付けている。	クラブの一員として、よりよいクラブ活動するために、諸問題を見いだしたり、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりしながら実践している。	共通の興味・関心を追求するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働し、自分のよさを生かしてクラブの活動に積極的に取り組もうとしている。